

単元	単元毎の評価規準		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
0章 整数の性質	○九九の計算が正確にできる。 ○自然数、整数、素数を理解している。 ○素因数分解ができる。 ○素因数分解の一意性を理解している。	○九九のきまりを見つけ出すことができる。 ○素因数分解を応用して、問題を解決することができる。 ○自分で問題を考察し、解決するための手立てを説明することができる。	○グループ活動を通して、積極的に九九のきまりについてを話し合う姿勢がある。 ○素因数分解をすることによって、整数の性質を見いだそうとしている。 ○自己評価表に自分の意見などをまとめることができる。
1章 正負の数	○正負の数を理解し、具体的な場面と結び付けることができる。 ○数の大小を不等号を用いて表わすことができる。 ○四則の混じった計算の計算順序を理解し、計算することができる。 ○分配法則の意味を理解し、計算する技能を身につけている。 ○数の範囲とその範囲でいつでもできる四則について理解している。	○四則計算と関連付けて、正負の数の四則計算の方法を考察し、表現することができる。 ○様々な事象において、正負の数を用いて問題解決に導くことができる。	○正負の数の必要性和意味を考えている。 ○正負の数を一般生活などに生かそうとしている。 ○問題解決のために積極的に正負の数を用いようとしている。 ○自己評価表に自分の意見などをまとめることができる。
2章 文字と式	○数の代わりとしての文字について理解し、その良さに気づくことができる。 ○文字使用のきまりにしたがって文字式で表すことができる。 ○代入の意味・方法を理解している。 ○式の値を求める技能を身につけている。 ○1次式の計算の方法を理解し、計算方法を身につけている。 ○いろいろな求積公式を円周率πなどの文字を使って簡潔に表す方法を身につけている。	○いろいろな事象に対して、文字をつかって式で表すことができ、その過程を説明することができる。 ○変数の意味を理解し、有用性について理解している。 ○また、文字式を活用して複雑な事象を簡易化することができる。	○数の代わりとして使える文字に興味をもっている。 ○文字の便利性に関心をもち、必要性和意味を考えようとする。 ○自己評価表に自分の意見などをまとめることができる。
3章 方程式	○方程式とその解の意味を理解している。 ○以上、以下、未満の意味や、不等号の記号の意味を理解している。 ○等式の性質を理解し、簡単な方程式を意欲的に解こうとしている。 ○1次方程式の意味を理解し、解き方を身につけている。 ○問題解決のために、方程式を活用し、数量の間の関係を方程式に表す技能を身につけている。また、文章題を解くときの手順を理解している。	○問題解決のために、方程式を活用し、数量の間の関係を方程式に表す過程を説明することができる。 ○文章題を解くときの手順を説明するとともに、問題解決へと導くことができる。 ○移項について等式の性質をもとに、なぜ成り立つのかなど考察し、表現することができる。 ○具体的な場面において、方程式を使って問題解決することができる。	○方程式の利便性、必要性について考えようとしている。 ○方程式を用いることで、効率的に問題解決することができることを自ら発見し、それを積極的に実践しようとする。 ○自己評価表に自分の意見などをまとめることができる。

4 章 比例と反比例	○関数の意味を理解している。 ○比例、反比例について理解している。 ○比例式を解くことができる。 ○関数の関係を式やことばで表すことができる。 ○与えられた条件を用いて関数の式を求めることができる。 ○比例・反比例のグラフの特徴を理解し、グラフをかくことができる。	○比例式の性質を利用して方程式を作ることができる。 ○具体的な事象の中から比例・反比例する2つの量を見出し、その関係を表現することができる。 ○具体的な事象の問題を、比例・反比例の考え方やグラフを利用して解くことができる。 ○比例、反比例のよさを考え、積極的にそれを用いて問題解決しようとしている。	○比例、反比例のよさを考え、積極的にそれを用いて問題解決しようとしている。 ○比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 ○自己評価表に自分の意見などをまとめることができる。
5 章 平面図形	○平行移動、回転移動、対称移動の意味を理解している。 ○それぞれの移動における性質を理解している。 ○定規、コンパスの使い方(意味)を理解している。 ○基本の作図を用いて、条件に合った図をかくことができる。 ○円と直線との位置関係、円の接線の意味を理解し、作図することができる。 ○おうぎ形の弧の長さ、面積を求めることができる。	○図形の移動に着目し、合同な図形の関係についてを考察することができる。 ○垂線、線分の垂直二等分線、角の二等分線の作図の方法を、交わる2つの円の対称性をもとにして考察することができる。 ○基本の作図を具体的な場面で活用しようとしている。	○定規とコンパスだけで様々な図形を積極的にかこうとしている。 ○図形に隠された特徴や性質などを自ら考え、発見しようとする。 ○自己評価表に自分の意見などをまとめることができる。
6 章 空間図形	○多面体や正多面体の意味を理解している。 ○正多面体であるかどうかを判断できる。 ○角柱、円柱、角錐、円錐の意味を理解している。 ○平面と平面、直線と平面、直線と直線の位置関係(平行、垂直、ねじれの位置)を理解している。 ○平面が3点で決まるかどうかを理解している。 ○回転体の意味を理解し、見取図をかくことができる。 ○2平面のつくる角および平面と平面の垂直について理解している。 ○立体の表面積、側面積、底面積の意味を理解し、求めることができる。 ○角柱・円柱や角錐・円錐の体積を求める技能を身につけている。 ○球の表面積、体積を求めることができる。	○角柱、円柱、角錐、円錐の意味を理解し、その違いを面、辺、頂点の数などに着目して考察しようとし、その特徴を見いだす技能を身につけている。 ○立体の表面積や体積の求め方を考察し、説明することができる。 ○展開図と立体とを見比べ、考察し、説明することができる。	○立体の性質や特徴を自ら考察し、見出そうとしている。 ○点、線、面、立体などの関連性を考察することで構成の仕方を理解しようとしている。 ○自己評価表に自分の意見などをまとめることができる。
7 章 データの分析と活用	○資料の範囲や代表値(平均値、メジアン、モード)を理解し、求めることができる。 ○資料を度数分布表やヒストグラムに表したり、相対度数を求めたりすることができる。 ○累積度数を求め、資料を比較・考察することができる。 ○確率の求め方を理解し、求めることができる。	○目的に応じてデータを収集して分析、考察することができる。 ○目的に応じて階級の幅を変えて資料を整理したり、資料の分布の様子に応じて代表値を適切に選ぶことができる。 ○不確定な事象の起こりやすさについて、数学的活動を通して理解することができる。	○それぞれの代表値の必要性や意味を考えようとしている。また代表値で比べた場合の特徴、信頼度など深い部分まで考察しようとしている。 ○一般生活の中で確率を生かそうとしている。 ○自己評価表に自分の意見などをまとめることができる。